

大学図書館の役割と位置づけ

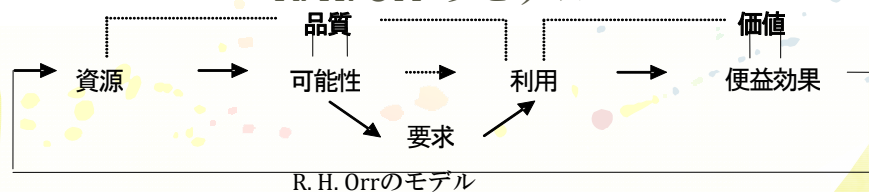
(2008.7.10)

筑波大学大学院図書館情報メディア研究科
永 田 治 樹

図書館の良さとは

- サービスはどのような状態か
- そのサービスはどのような良さをもたらしているか

R. H. Orrのモデル



大学図書館の役割を規定するもの

「大学図書館の基本的な役割」（『学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について（中間報告）』）

- 教育、研究に関わる学術情報の収集、蓄積、組織化が行われ、蓄積された学術情報は、検索可能な形で公開される
- 学生が図書資料を活用しながら自ら学習する場



大学図書館の位置づけ

使命宣言

なにを
(サービス)

どのように
(活動)

だれに
(顧客)

Robert D. Stuart & Barbra B. Moran.
Library and Information Center Management. 7th ed. 2007.

米国大学図書館協会(ACRL)
「高等教育機関における図書館基準」
(Standards for Libraries in Higher Education)

- 図書館の使命（ミッション）と目的は、機関の使命・目的に沿い、それと整合していなくてはならない



大学図書館の位置づけ

- ビジョンと使命を明確に定義し、目的と目標を設定し、特定の戦略や最終目標を達成するよう配慮した行動方針を遂行して機関が将来に備えるのに、それらは役立つ。戦略計画の立案は、評価、更新、改善を反復するプロセスである。このプロセスは、コミュニティの本質的な価値に焦点を当て、日々の活動と決定を導く全体的な方向を示す

求められる価値、あるいはその様態の変化



大学図書館の使命・目的の再確認
(環境変化に応じた戦略計画の再構成)

位置づけの修正

大学図書館環境の変化

学術コミュニケーションの変化や高等教育の拡大

- デジタル化による学術流通システムの変化
- 大学改革による弾力的な高等教育の展開

各大学図書館の位置づけは、どのように変化しているかを確かめておく必要がある！

この変化のあり様は、その大学の活動の様態によってかなり大きな違いがある、つまりそれぞれの大学の戦略計画は差異が生じる

図書館を教育の基盤として使う！

- 情報リテラシー教育
- 教育・学習用の情報の確保
- 場としての教育機能

大学図書館サービスが提供する価値とは

改めて、図書館サービスが構成する価値とはなにか（さまざまな価値を付加するか）、また、そのためにどのような手立て（専門的なツールと専門職）が必要かを考慮すべき段階

バリューチェーン（１）

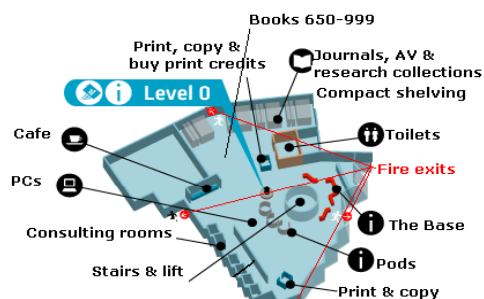
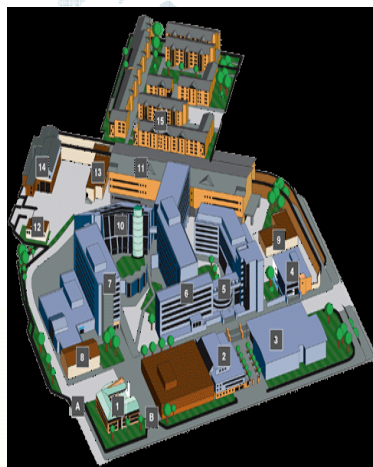
Michael E. Porterが、*Competitive Advantage: Creating and Sustaining Superior Performance* (1985) 示した概念：
事業活動を機能ごとに分類し、どの部分（機能）で付加価値が生み出されているか、競合と比較してどの部分に強み・弱みがあるかを分析し、事業戦略の有効性や改善の方向を探ること

バリューチェーン（２）

- ◆ 図書館が提供する価値のうち、多くのものは、図書館において構成されるものではない。
図書館は外部に存在する価値をとりこみ、それに付加価値を賦与して、それを顧客に提供している。基本的に外部に存在する価値をとりこんだバリューチェーンの形成にあたっているといつてよい
- ◆ 価値は、顧客（多様なステークホルダーが想定される）承認によって決定される
- バリューチェーンの連鎖的活動によって顧客に向けた最終的な“価値”が生み出されたとする考え方を、さらに進めて、組織の枠を飛び越え、外部の経営資源を活用した「ビジネスモデル」のあり方とはどのようなものとなるのか

場としての図書館

Saltire Centre (Glasgow Caledonian University)





インフォメーション・コモンズ／ラーニング・コモンズの定義

D. Beagleによる定義

学習支援のために組み合わせた物理的資源、デジタル資源、人的資源、社会的資源の中に設定されたネットワークアクセスポイントとITツールとで構成されるクラスター

- × 概念空間として—三つのコアサービスの「連続体」
 - 情報を同定・探索するレファレンス、
 - 処理し操作する調査データサービス、
 - 提示のために再梱包するメディア・サービス
- × 物理空間として
 - 案内とレファレンスのデスクの重要性（最初のコンタクトポイント）
 - 調整されかつ拡張された研究・学習スペース
 - 重要な協力関係を持つ、他のキャンパスのユニットやプロジェクトとの近接性

15

米国のICと英国のLC事例



英国のウォーリック大学のラーニング・グリッドでは、図書館外の本部棟のスペースを活用したものである。マネジャーとして教育に携わってきた専門家と、そのもとにテクニシャン(IT業務の担当)1名が配置され、あとは「学生アドバイザー」が常時数名いるという布陣である。学生アドバイザーというロゴの入ったTシャツを着け、学生たちの相談(ITの問題もあれば、授業課題などの相談もある)に親身に乗っている

米国のジョージア工科大学では、図書館と情報技術部門(OIT: Office of Information Technology)との連携により、図書館内のスペース(ライブラリー・ウェスト・コモンズ)にインフォメーション・コモンズを設定した。双方が情報資源やスタッフを出し合っている。また、ICTのサポートには、学生アシスタントが積極的・主体的に関わっている。

Fernekes, Bob, Partnering for Student Learning: the University Library Information Commons.
<http://www.ifla.org/IV/ifla72/papers/072-Fernekes-en.pdf>



16

IC/LCの成立要件

1. 実施主体の条件

- ①技術的・物理的環境
- ②教育・学習環境（コース・マネジメント・システム、VLEの提供）
- ③人的支援

2. 機関外的な条件

- ①学習理論の変化
- ②ネット・ジェネレーション

17

図書館における情報環境の設定 (JISC IE: Andy Powellの構図)

